

協働×I=郷土愛

第一班：大野 隆行・岩倉 圭介・小森 美咲・吉田 崇紘 TA：澤 洋輔

1. 土浦市の概要

土浦市は面積約 123km²、人口約 14 万人の県南部に位置する中核都市である。東京から約 60km 圏内に位置し、その良好な立地条件から、つくば市や牛久市とともに業務核都市に指定されている。また、国内第 2 位の湖面積を誇る霞ヶ浦や名峰筑波山といった自然環境にも恵まれている。特に霞ヶ浦に関しては、江戸時代にその水運が江戸と東北をつなぐ重要な交通網であったことから、水陸交通の拠点としてまちの発展に大きく貢献してきた。明治に入ると常磐線が開通したこともあり、霞ヶ浦での水上交通は衰退。戦後は全国的にもモータリゼーションの傾向が進み、1988 年には常磐自動車道が整備された。現在土浦市ではモータリゼーションにより郊外化が進んでしまったこと、それによる中心市街地の空洞化などが深刻な問題として浮き彫りになっている。

2. 土浦市の現状

2-1. 人口

2006 年の新治村との合併以後、人口はほぼ横ばいに約 143,000 人前後で推移している(図 1)。しかし、人口ピラミッドを見ると、つぼ型でかつ凸部分が上にシフトし、高齢者割合は相対的に高くなってきている(図 2)。

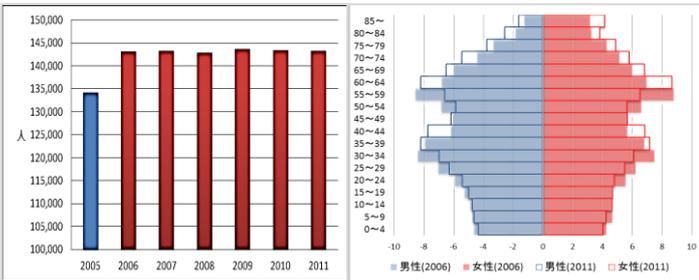


図 1：人口推移

図 2：人口ピラミッド

2-2. 交通

土浦における道路交通の軸は南北に走る国道 6 号、常磐自動車道、東西に走る国道 125 号、354 号となっている。国道 6 号においては市内に慢性的な渋滞箇所が存在している。現在牛久土浦バイパスが建設中であり、開通により荒川沖駅周辺の渋滞は解消することが期待される。また、圏央道が全線で開通すれば市内の交通はより円滑になり、成田空港や埼玉方面への所要時間も大幅に短縮されると考えられる。

路線バスについては利用者の減少やそれによる廃線などが問題となっている。キララちゃんバスや乗り合いタクシーなど新たな取り組みも行われ、市内交通の活性化を目指している。

2-3. 農林水産業

市内の土地利用状況をみると、農地は 35% (2009) とその割合は高いが、38% (2007) と比べると農地から宅地などへの転用が進んでいる。経営耕地面積は年々減少しており、農業産出額は 1995 年より 100 億円前後を推移している(図 3)。年代別農業就業人口でみると、65 歳以上の割合が高く、各年代とも減少している(図 4)。

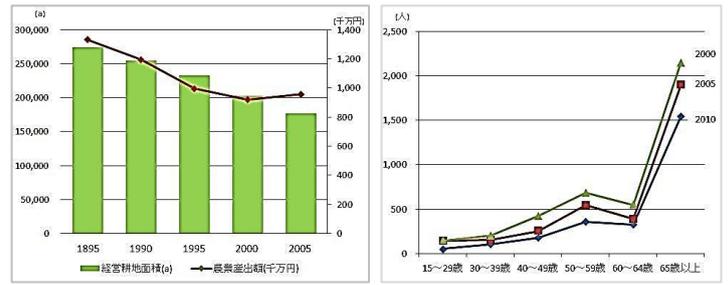


図 3：経営耕地面積と農業産出額の推移

図 4：年代別農業就業人口

また、レンコンの生産量が国内第 1 位であり、霞ヶ浦周辺での生産が盛んである。レンコンを使った加工品も多く生産され、土浦の土産品として販売が促進されている。また、新治地区においては柿やなしなどの果樹園も多く、土浦北 IC から小町の里までの県道 199 号はフルーツラインと名付けられるほどである。

水産業では霞ヶ浦で水揚げされたワカサギなどの佃煮が名産の味として有名であるが、近年は水質の変化などにより漁獲量は減少している。

2-4. 工業

2009 年の製造品出荷額等はリーマンショックの影響もあり大幅に減少したものの、翌年には製造品出荷額等、従業員数ともに増加しており、土浦市の工業は徐々に回復しているように思われる(図 5)。工業の特徴としては、重化学が全体の約 7 割を占めており、特に機械系に関しては工業全体の半数となっている(図 6)。

また、市内には主要な 4 つの工業団地(東筑波新治、テクノパーク土浦北、おおつ野ヒルズ、神立)があり、神立を除く 3 つの工業団地では、奨励金交付制度を設けることにより新たに企業立地を推進している。特に土浦おおつ野ヒルズは、近年植物工場(土浦グリーンハウス)が立地したこともあり土浦市の新しい工業の拠点として注目されている。

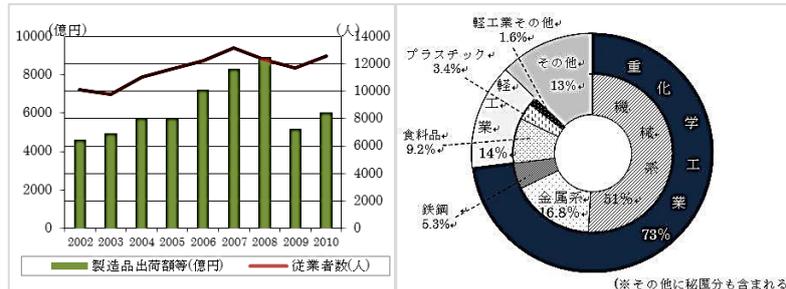


図 5：製造品出荷額等と従業者数の推移

図 6：2009 年土浦市工業内訳

2-5. 商業

土浦市は県内有数の商業都市であり、年間商品販売額は卸売、小売業共に水戸市、つくば市に次いで県内第 3 位である(表 1)。しかし市内の商店数、従業員数は減少傾向であり、郊外大型ショッピングセンターの出現による影響だと考えられる。また、これにより土浦駅前の商店街がシャッター通り化、大型店舗の閉店と中心市街地空洞化の問題も起きている。市内全体でもロードサイドショップが多く見られ、駅前の衰退に影響していると考えられる。

表 1：県内 3 市の卸売業と小売業の年間商品販売の比較

《卸売業》			《小売業》		
市町村名	年間商品販売額 (万円)	構成比 (%)	市町村名	年間商品販売額 (万円)	構成比 (%)
水戸市	114,346,814	29.2	水戸市	37,667,310	12.7
つくば市	57,033,337	14.6	つくば市	20,747,871	7.0
土浦市	37,208,713	9.5	土浦市	20,100,578	6.8



図 8：市内の自主防犯活動の様子

図 9：桜川氾濫時浸水想定区域

2-6. 観光

全国花火大会をはじめとする土浦の 3 大イベント（他、3 月～4 月の桜まつり、8 月のキララまつり）に入込観光客数が集中しており、イベント依存型の観光であると言える（図 7、表 2）。また、土浦商工会議所ではカレーのまちとして土浦を盛り上げていこうという動きもあり、毎年秋にはカレーフェスティバルを実施するなど新たな試みも展開している。一方、霞ヶ浦や筑波山といった豊かな自然環境、中城通りに見られる歴史的な街並みなど、土浦らしい既存資源を上手く活かしかれていないことや、PR 不足が観光面での課題となっている。

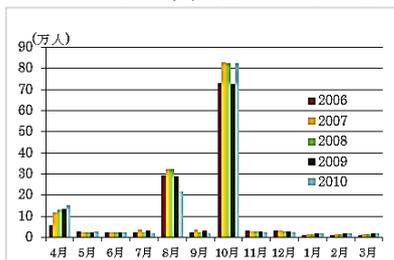


図 7：月別入込観光客数

表 2：2010 年の土浦 3 大イベントとその観光客数

3/20～4/11	桜まつり	約 12 万人
8/6～8/8	キララまつり	約 18.8 万人
10/2	花火大会	約 80 万人

2-7. 医療・福祉

医療では、病院の施設は人口が多く分布している常磐線沿線に偏りがあり、沿線から遠い新治地区の市民にとっては利便性が高くない。また、真鍋新町の協同病院がおおつ野地区への移転することで跡地周辺の集約拠点としての機能が低下する。

福祉では、高齢者向け福祉施設が 68 箇所あり、市内に偏りなく配置されている。高齢者が多い新治地区においては高齢者同士の交流をもたせる土浦コミュニティカレッジなどの取り組みが行われている。

2-8. 教育

市内には公私合わせて 8 つの高校があり、県内の高校生数では水戸市に次いで県内第 2 位である。特徴として、市外の学生も多く市内の高校に通っているということが挙げられる。

2-9. 防犯・防災

土浦市の犯罪件数は年々減少しているが、県内では水戸市、つくば市に次いで県内第 3 位の多さである。刑法別件数では空き巣などの窃盗が圧倒的に多くなっている。犯罪を防ぐために、情報を提供するメールの配信、自主組織の設立などの活動を行っている（図 8）。

市内中心部には桜川が流れており、桜川で洪水が発生すると市の機能が大きく停滞すると考えられ、浸水想定区域内に立地する企業などは事業継続計画などの対策が必要である（図 9）。

図 8：市内の自主防犯活動の様子

図 9：桜川氾濫時浸水想定区域

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災では住宅全壊が 3 棟、火災が 1 件、怪我人が 7 人と大規模な被害はなかったが市内各所で液状化現象が発生した。ライフラインは電気が 3 月 12 日、水道が 18 日、ガスが 28 日、に全面復旧している。

3. 現状の課題

表 3：現状の課題のまとめ

人口	人口減少、超高齢化
交通	慢性的な渋滞、公共交通の利便性の悪さ
農林水産業	若者の農業離れ
工業	分譲地へ企業の誘致
商業	中心市街地の衰退
観光	イベント依存、既存資源の活用不足
医療・福祉	地域による施設数の偏り
教育	地域による施設数の偏り
防犯・防災	犯罪件数割合が県内最多

4. まちの声

2010 年の土浦市民満足度調査より、施策の満足度・重要度についてまとめた。この調査では現在の施策に対する満足度・重要度を 1 から 5 の 5 段階評価で示している。重要度が高く、満足度が低い項目をみると、中心市街地のにぎわい対策や公共バス路線などの交通網、バリアフリーの整備が上位に挙げられ、中心市街地への改善を望む声が高いことが伺える（図 10、表 4）。

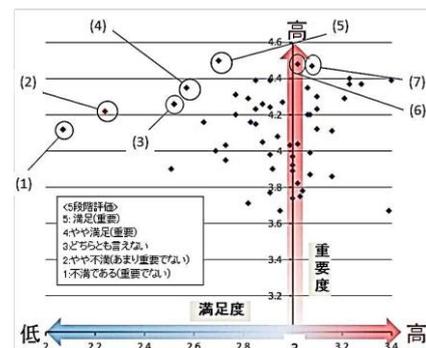


図 10：施策の満足度・重要度

表 4：2010 年度市民満足度調査

	重要度	満足度	施策項目
(1)	4.12	2.07	中心市街地のにぎわい対策
(2)	4.22	2.24	駅前開発など中心市街地の整備
(3)	4.26	2.52	公共のバス路線や鉄道などの交通網
(4)	4.35	2.57	バリアフリーによる施設や道路の整備
(5)	4.50	2.70	湖や川をきれいにする対策
(6)	4.48	3.02	病院などの医療施設・診療体制
(7)	4.47	3.08	休日・夜間などの救急医療体制

また、土浦市役所、NPO 法人まちづくり活性化土浦、土浦商工会議所、モール 505 商店街の方々にインタビュー調査を行った。全体としては、立場によってまちづくりへの意識の違いがあるような印象を受けた。行政やまちづくりに関わる団体が、土浦をよりよいまちにしていこうと意欲を高めている一方、商店街の方からは時代のこうした傾向に逆らって市街地を活性化させていくことは不可能ではないかと厳しいご意見も頂いた。

5. マスタープラン提案

5-1. 人口分析および将来人口推計

コーホート要因法を用いて 2040 年までの人口を 5 年毎推計したところ、今後は人口減少の一途をたどり、減少割合も通増すると推計された。特に約 20 年後の 2030 年には人口約 128,000 人の内、高齢者割合が約 29%にまで高まり、“超超高齢化社会”を迎えることとなる。更に、その 20 年の間に生産年齢人口割合も約 6%低下し、生産活動の核が衰退してしまう（図 11）。

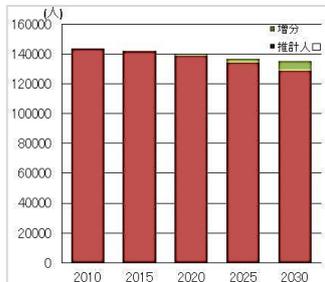
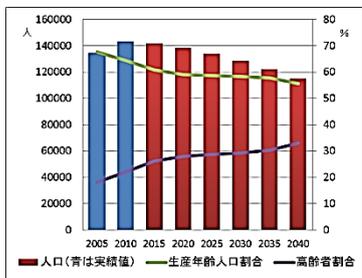


図 11: 人口推計と人口割合の推移

図 12: 人口フレームの設定

以上の分析をふまえ、人口の通減、高齢者割合の通増を前提に、2030 年の将来人口を人口フレームとして考える。第 7 次土浦市総合計画では 6 年後の 2017 年の目標人口を 145,000 人と設定しているが、推計値との差は約 5,000 人であり、現況ではそこまで爆発的な人口増加は望めないと思われる。しかし、圏央道や常磐線の整備には見通しが立っており、これから土浦市へのアクセス環境は向上する。更に、協同病院移設先に決定した新拠点、おおつ野地区の整備、また長期的に見た市全体の地域資源の再発見、魅力あるまちづくりによって、生産年齢人口、特に若年層の流入人口の通増、また流出人口の通減を期待する。以上より、2030 年の人口フレームを 135,000 人（うち高齢者割合 27.7%）と設定する（図 12）。

5-2. 将来像

本マスタープランにおける土浦市の将来像を

「協働によって郷土愛が育まれるまち」

と掲げる。これは、市の現状と課題、また人口分析を経て得られた、

- ①市民に愛されるまちにしたい。
- ②高齢者が住みよいと感じる+若い人にも魅力あるまちにしたい。

という大きく 2 つの方針を基底とする。

5-3. 全体構想

将来像達成のための全体構想は以下の 7 つである。

表 5: 全体構想

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> ①社会福祉の充実 ②公共交通機関の利便性の向上 ③既存資源の効果的な PR と活用 ④安心して暮らせるまちづくり ⑤歩いていて楽しいまちづくり ⑥文化的で教育にも力を入れたまちづくり ⑦土浦らしさを感じられるまちづくり |
|---|

5-4. 部門別構想

<交通>

利便性の高い公共交通、特に高齢者の足としての機能

を充実させる。また、歩行者や自転車が安全に回遊できるように整備を行う。

<農林水産業>

若い力を根付かせ、若者と高齢者が協働した取り組みを進める。産物の魅力をアピールし、全国での認知度を高めていく。

<工業>

環境に調和した工場を集め、更なる発展を目指す。

<商業>

中心市街地に多くの人が集まり、活気を取り戻すことで、土浦を中心部から元気にしていく。

<観光>

イベントだけに頼らず、霞ヶ浦や筑波山、サイクリングロードなどの観光資源を上手く活用し、観光客を呼び込む。

<医療・福祉>

子育てが楽しく行え、高齢者も安心して暮らせるような設備、施設を充実させる。

<教育>

文化的、歴史的資源を活用し、学生（特に高校生）が積極的に地域参加、地域貢献できるような教育を図る。また、図書館などの生涯学習施設を充実させる。

<防犯・防災>

災害に強く犯罪が少ない、住民が安心して暮らせるまちに整備する。

5-5. 地区別構想

構想実現のために「舞台」というコンセプトを定める。1 つの舞台は、「舞台を演じる役者」、「舞台を楽しむ観客」、「舞台を支えるスタッフ」という 3 者のつながりで織り成される。これをまちに当てはめるとどうなるか。役者は市民・団体、観客も市民・観光客、スタッフは行政・企業だと言えるだろう。つまり、多様な役割を担う市民・団体・行政のつながりが 1 つの舞台を作るのである。そしてこのコンセプトのもと、土浦市の特色ある 5 地域を舞台に見立て、それぞれの舞台上での「つながり」を意識した活動を提案していく。

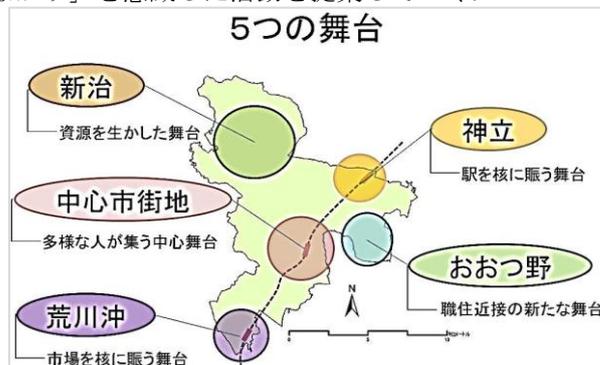


図 13: 舞台に見立てる地区別構想

<中心市街地> 「多様な人が集う舞台」

現在計画が進められている土浦駅前北地区の市街地再開発事業で建設されるビルの中には、図書館や役所機能、住居が入り複合の拠点施設となる（図 14）。

また、土浦駅西口のロータリーは送り迎えの車の混雑とバスと歩行者動線の交わりなど課題があり、重点整備することでバリアフリー化、快適性を高める。

さらに、市内の回遊性を高めるため滞留できる場所を創出する。既存の回遊のポイントであるまちかど蔵やラクスマリーナなどの場所とアクセスの整備をする。



また、市役所の移転 図 14：土浦駅前北地区再開発事業イメージ先と市役所移転後跡地の有効利用も検討する。

<おおつ野> 「職住近接の新たな舞台」

現行の用途地域を考慮して生活環境の質を保ちながら、住民が暮らしやすい街として新協同病院を拠点とした地域交流地区での活発なイベント活動、地区内企業の地域貢献活動を行う（図 15）。



図 15：おおつ野の地区整備計画

また、神立駅、土浦駅など交通結節点までのバス路線整備などを行い、利便性を高める。

<新治> 「資源を活かした舞台」

小野小町ゆかりの小町の里、坂東三十三箇所の札所である清滝寺、夜景とパラグライダーの朝日峠展望公園など地区内の観光資源の積極的 PR を通して地区に人が集まる仕掛けをつくる。

次に、高齢者が暮らしやすい場所として、医療・福祉施設の充実を図る。

また、農地の多さという資源を活かし、農家と市民の交流を促す農業発展プログラムなどの事業を展開し市民と農家のつながりを創出する（図 16）。



図 16：農業発展プログラム

<神立> 「駅を核に集う舞台」

神立駅前を地区内の拠点として一層の整備を行う。現在茨城県、土浦市、かすみがうら市の間で計画進行中の「神立駅の橋上駅舎化」事業を推進し、現在の神立駅が抱える歩道橋におけるバリアフリーの未整備、駅前ロータリーの歩車未分離などの緒問題に対策を打つことで賑わい、交流、安全、快適を実現する地区拠点として整備を行う（図 17, 18）。また、駅周辺に多く立地する工業団地やおおつ野地区への交通利便性を高めるため、バス路線の拡張、整備も検討する。



図 17：橋上駅舎化のイメージ（春日井駅） 図 18：神立駅橋上駅舎化のイメージ

<荒川沖> 「市場を核に集う舞台」

荒川沖地区では市民が集う場所が少なく、協働を創出する仕組みが必要と考え、土浦公設地方卸売市場で開催されている市民も参加できる「いかっぺ市」の積極的な PR と荒川沖駅をはじめとした交通結節点と市場のつながりを強化する。また、地域活力の創出の他、高齢者や通学者、来訪者の移動手段の確保、交通渋滞問題の解消に向けて、地区内コミュニティバス導入を再検討する。

荒川沖駅前の商業エリアの整備を行い、近隣市民だけでなく、近隣にある阿見アウトレットの客足と通学生への滞留できる場所を設けることで、単なるベッドタウン、降りるだけの駅ではない人の集う魅力ある場所とする。

5-6. 都市像のまとめ

3主体のつながりによる協働が、5つの特色ある舞台での活動を創る。それらの活動が土浦市全体に魅力をもたらす。魅力は観光客を呼び、また新たなつながりを生み、市民の郷土愛も育む。

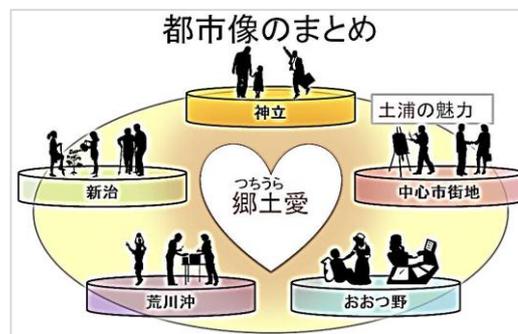


図 19：都市像のまとめ

6. 今後の活動

- ・舞台毎の施策の提案（重点整備計画）
- ・提案に伴う効果の計量的分析（実現可能性の検討）
- ・舞台間の交通網の分析・計画
- ・市民、NPO、行政への聞き取り調査
- ・継続したまちあるき

7. 参考・協力・引用

—参考—

- ・土浦・土浦の歴史
- ・土浦市 HP
- ・都市計画マスタープラン（2004年）
- ・第7次総合計画（2008年）
- ・統計つちうら（2009年）
- ・いばらき統計情報ネットワーク HP
- ・農業センサス（2000, 2005, 2010年）
- ・茨城県工業統計調査（2002年～2010年）
- ・観光客動態調査報告（2006年～2010年）
- ・土浦市民満足度調査・高校生意識調査報告書（2010年）
- ・土浦市住民基本台帳人口推移
- ・国立社会保障・人口問題研究所

—協力—

- ・土浦市都市整備部都市計画課/東郷様、長坂様
- ・NPO 法人まちづくり活性化土浦/小林様
- ・土浦商工会議所/稲葉様
- ・まちなか交流ステーションほっと One/羽根田様
- ・モール 505 まんがランド店長様

—引用—

- ・図 8, 図 14：土浦市 HP <http://www.city.tsuetsuura.lg.jp/index.php>
- ・図 16：立川市 HP <http://221.186.119.82/cms-sypher/www/info/detail.jsp?id=7360>
- ・図 17：春日井市 HP <http://www.city.kasugai.lg.jp/machi/kyoten/kasugaieki.html>